

令和2年度 大田区区民協働推進会議（第2回）

日時：令和2年9月18日（金）

場所：消費者生活センター2階 講座室

【次第】

- 1 令和3年度実施事業（新規） チャレンジ助成・チャレンジプラス助成 審査員・審査スケジュールについて
- 2 令和3年度実施事業（継続） スタートアップ助成、ステップアップ助成、チャレンジ助成・チャレンジプラス助成 審査員・審査スケジュールについて
- 3 委員レポートについて
- 4 その他

【出席者】

委員：志村・櫻井・柳谷・小林・中島・石垣・小白木・中澤・中原・牛山・須田

事務局：地域力推進部長・区民協働担当課長・区民協働担当2名・生涯学習担当2名・

協働推進アドバイザー1名

【会議録】

事務局	<p>定刻になりましたので、令和2年度 第2回大田区区民協働推進会議を始めさせていただきます。</p> <p>本日、酒井委員からご欠席の連絡をいただいております。また、中澤委員から遅れる旨の連絡をいただいております。ただいま、委員12名のうち10名の方にご出席いただいております。過半数に達しておりますので、会議は有効に成立したことをご報告申し上げます。</p> <p>中島会長にご挨拶をお願いいたします。</p>
会長	《会長あいさつ》
事務局	ありがとうございました。ここからは、中島会長に進行をお願いいたします。
会長	今井部長から挨拶をお願いいたします。
部長	《部長あいさつ》
会長	<p>会議をはじめさせていただきます。</p> <p>お手元の会議次第に沿って進めたいと思いますが、可能な限り時間を短縮して、早く終わることにご協力いただきたいと思います。よろしくをお願いいたします。</p> <p>「令和3年度実施事業（新規）チャレンジ助成・チャレンジプラス助成 審査員・審査スケジュール」を議題といたします。事務局より説明をお願いします。</p> <p>《資料に沿って説明》</p>
事務局	<p>「配布資料1」をご覧ください。令和3年度のチャレンジ助成・チャレンジプラス助成の審査スケジュールは資料のとおり予定しています。</p> <p>また、審査員につきましては、一般公募委員から2名、学識経験者としてご参画いただいております牛山副会長、区職員からの選出委員、社会福祉協議会選出の委員、事務局の管理職も2名の合計7名程度とさせていただきたいと思います。</p> <p>なお、事務局案でご決定いただいた場合、一般公募委員の審査員については、関係する団体で助成を検討されているなど、審査員として関われるかどうかというご事情を伺う必要があることなどを踏まえ、どなたにご担当いただくかは、後日、事務局と調整をさせていただくことでご了承いただければと思います。説明は、以上です。</p>
会長	ただいまの説明内容につきまして、意見等がございましたら発言願います。

<p>会長</p>	<p>《委員からの意見等なし》</p> <p>それでは、事務局案のとおりとします。 事務局のほうで審査を担当する委員と調整し進めてください。</p>
<p>会長</p>	<p>次に、「令和2年度実施事業 スタートアップ助成、ステップアップ助成、チャレンジ助成・チャレンジプラス助成（継続）審査員・審査スケジュール」を議題といたします。 事務局より説明をお願いします。</p> <p>《資料に沿って説明》</p>
<p>事務局</p>	<p>「配布資料2」をご覧ください。令和2年度のスタートアップ助成、ステップアップ助成、チャレンジ助成・チャレンジプラス助成の継続手続きにおける審査スケジュールは資料のとおり予定しています。 審査員は、一般公募委員から2名、社会福祉協議会選出の委員、事務局管理職の2名の5名程度とさせていただいており、書類審査のみを実施する予定です。 加えて、助成事業の経過観察について、現在、区の職員のみで各採択団体に1回目の経過観察を実施しています。2回目は審査を担当された委員にご参加いただく予定としており、スケジュールや担当は、後日、事務局側と調整させていただくことで、ご了承いただければと思っています。 なお、経過観察の際には、m i c s おおた、及びこらぼ大森のスタッフにも同行していただき、オーちゃんネットで紹介をしていただく予定としています。説明は以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>ただいまの説明内容につきまして、意見等がございましたら発言願います。</p> <p>《委員からの意見等なし》</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、事務局案のとおりとします。 事務局のほうで審査を担当する委員と調整し進めてください。</p>
<p>会長</p>	<p>次に、「委員レポート」を議題といたします。 事務局より説明をお願いします。</p> <p>《資料に沿って説明》</p>
<p>事務局</p>	<p>「配布資料3」をご覧ください。 こちらは、委員の皆様からご提出いただいたレポートをまとめさせていただいたものです。2ページ以降に各委員のレポートを掲載しておりますので、お一人ずつ補足説明をお願いいたします。</p>
<p>志村委員</p>	<p>行政の組織が変わったことで、区民協働と生涯学習の役割分担の整理をやっていただけるといいと思いました。地域という言葉、あとテーマというところを、どこから切り込んでいけばいいのか、そういうところに注目をしていくべきだろと思っています。 他の委員の意見を拝見して、独自の取り組みをされている方たちの思いもすごく感じ、そこを気持ちよく生かしながらやっていけるような仕組みというのが大事だと思いました。 提言9に関して、やって楽しいコンテストとか、そういう評価される場面づくりみたいなものを考えたらいいのではと思ったり、区のホームページも、もう少しそういった部分をアピールしていただきたいと思っています。</p>

	<p>他の委員の意見の中で、特に注目したのが、小林委員の書かれた、「活動するときに活動スペースまでをセットでパッケージしたら動きやすいのではないか」という意見とか、成功事例の発信というところも思ったりします。石垣委員の、青少対の取り組みで良さを生かしていくということ、小白木委員の工場・商店の空きスペースは、拠点というところにつながると思います。空き家の活用とか、そういうのもあるのではと思いながら、意見を拝見しました。</p> <p>社協の取り組みも詳しく書かれていて、社協が地域とコラボということが必要になってくると思っています。中間支援組織というのが、どのように位置づけられるのかと、個人的に確認をさせていただいて、やはりそこがリードできる、安心して任せられるという組織に育っていただきたいと思いました。</p>
小林委員	<p>今、志村委員もおっしゃっていたような形で、大田区として、区長も含めて区民協働を推進していますが、まだ余地がすごくたくさんあるのではないかと思います。他の委員の意見を見ても思ったので、その辺りは、もっと真剣に考えてもいいと思います。</p> <p>先ほど話も出ていた、活動の場所の問題というのも、我々が平成 23・24 年に助成金をもらったときから全く改善がされていない状況です。広報なんかの部分は改善されてきて、助成金終了後も協力してくださっています。</p> <p>こういうレポートで皆さんが挙げてくれるものにしっかりと取り組んで、どういうふうに対応できたかということを生かしていけるような仕組みにしていきたいと思いました。</p>
柳谷委員	<p>オーちゃんネット、m i c s おおた、こらぼ大森、そういった中で人材育成をされていると思うのですが、やはり大田区をよく知っている区民の中から相談ができる人を育てていくということ、団体としても何かお手伝いできないかと思っています。</p> <p>私が属する NEXPO ふれあいネットワークは、以前は研修をやっていました。今はコロナ禍でできていないのですが、人材確保や助成金確保につながる研修や講習会などを企画することもできると思います。メンバーの中には、助成金を活用するノウハウを持っている人材もいますので、そのような研修も企画できると思っています。</p> <p>それから、オンラインのことについて触れていますが、例えば区民活動フォーラムをオンライン化できないのかと思っています。本当は顔を合わせたほうが絶対良いに決まっているのですが、区民活動フォーラムのテーマに沿ったような形で情報をいつでも交換できる仕組みとしてオンラインについて検討できないのかと思います、投げかけています。</p> <p>また、オーちゃんネットにも、例えば求むこういう人というコーナーというようなマッチングシステムがあったほうが分かりやすいと思い、書かせていただきました。</p>
櫻井委員	<p>皆様のお話を伺うと活動の拠点についていろいろな課題があるみたいですが、私の関わっているところは、幸運なことに六郷の地域力推進センターで活動させてもらっているので恵まれていると思っています。</p> <p>コロナになってからオンラインでやってみてよかったのは、集まった場合は、普通、発言する人が決まってしまうのですが、オンラインになると順番に皆様に意見を言うてもらいなど新しい発見があったと思っています。</p> <p>また、六郷のほうでは外国人、アジア系だけではなく、最近は欧米の方のファミリーも見かけるようになって、また新しい時代が来たのかと思っています。私自身は区民ではないですが、そういった意味でも皆様と違った視点で見られたらいいと思っています。</p>
須田委員	<p>出張所の視点から書かせていただきました。提言 7 のところで、例えば協働をするにあたって、何か一つテーマを持って、一つの切り口から協働ということもあると思っています。一つは、防災です。今、大森西地区、21 町会がありますが、この全てが同じように防災を考えているかというところではなく、やはり温度差というものがあります。</p>

	<p>特に新しいことをやっていきたい、他の団体と連携していきたいという町会を、まずモデルとして、おやじの会やPTA、民生委員の方々と一緒に防災の拠点と呼んで避難所の運営について考えていくということをさせていただいています。これら先進的な取り組みを出張所としては、連携を支援していきたいというふうに考えています。</p> <p>あと、活動の場ということですが、西地区内にこらぼ大森がありますので、そちらでは大森コラボレーションが指定管理者として自主事業、協働事業をやっていただいています。そちらの活動を支援しているといったところを紹介させていただきました。</p> <p>社会福祉協議会は地域福祉を推進する団体です。それは今も変わっておりませんが、地域福祉よりももっと広い地域共生社会という概念が今出てきていますので、それに向かってやっていくべきだろうと思います。</p> <p>その現れとして、昨年から社協は、この推進会議にも参加させていただいて、より地域福祉をもう少し包含する形での地域づくりに進めていこうと書かせていただきました。</p> <p>社協の紹介もしているのですが、地域共生社会の文脈でいきますと、社協の中に地域福祉コーディネーターというのが現在5人います。先ほど中間支援というお話が出ましたけれども、その職員がいろんな形で、ボランティアセンターを含めて、社協は中間支援組織としてやっていくべきなのではないかなと思っています。</p> <p>今後、いろんな事業を、そういった形で展開していくことも必要かなと思っています。いろんなネットワークをつくっていかないと、いろんな事業もできないですし、社協だけ、あるいはこの団体だけではできないことがいっぱいあります。地域の課題を解決するために、連携・協働していくというところの下支えをする組織という役割に社協はなっていくべきだと思います。</p> <p>学びと協働の関係で最後に書いていますが、大田区の中に多くの団体があると思います。地域の中で活躍したい、あるいは元気にしたい、これに興味がある、仲間づくりをしたい、そういった思いを持った方がいっぱいいらっしゃいます。その方々が集まって学びを通していきながら、まちの課題に気がついたり、あるいは、こういった地域をつくりましょうという、お互いが話し合ったり、そういった化学変化が起きて地域はつくられていくのかなという気がしています。うまく化学変化が起きるようにつくっていくか、あるいはうまくつながるように、というところが必要です。そのような芽はいっぱいありますし、きっとそういう事例は大田区中に転がっていると思いますので、そういった環境を大事にしていくべきだろうと思います。</p>
<p>中原委員</p>	<p>提言1ですが、いろいろな方が区や社会福祉協議会へ相談に来られると思います。そのときに、どこに相談、誰に相談というのがなるべくなくなるような、情報のネットワーク化とともに一元化した専用窓口、案内窓口みたいなものがあればいいと認識しました。</p> <p>提言2、提言3も含めてですが、私は10年ぐらい前まで公認会計士の仕事をしていました。内部管理体制、J-SOXとか、いわゆる上場企業みたいな、民間的な手法による公共サービスの実現です。今は、逆に私たちのような社会福祉関係の仕事をしている者が企業に行って研修をやったり、そういった企業と社会福祉関係団体の連携した相互のネットワーク化で、お互い学び合っていく、それが企業や私たちを含めたSDGsの目的達成には必要不可欠かなと認識しています。</p> <p>提言4、コロナの関係もあると思いますが、商店街を歩いていると、残念ながら閉まったお店があります。そういったところを有効活用化できないかなというところで書かせていただきました。</p> <p>提言5、6の情報発信は、提言8の学びの機会とも関係してきますが、例えば、今オーちゃんネットでは、活動のジャンルから団体を検索して見れます。ただ、オーちゃんネットに登録している団体で、ある介護施設のヘルパーさんが足りないときに、この介護施設のヘルパーさんがちょっとヘルプに行けるとか、そのような人材の友好交流があったり、利用者から見て、今このデイサービスは空きがないとか、この施設は</p>
	<p>小白木委員</p>

<p>石垣委員</p>	<p>こういうことをやっているのかなというのが一目瞭然で見えるようなネットワーク化みたいなのがあったらすごく便利だなと思っています。</p> <p>私が実際やっている団体が、自治会であり、青少対であり、人権擁護委員であったり、警察関係であったりで、ちょうどそれが人の輪というのですか、いろいろな相談を受けても、大体のものが自分の範囲で紹介できています。</p> <p>私はもう 40 年ぐらい青少対に関わっていますが、ジュニアリーダーに入ってくる子どもが親になって手伝ってくれたり、その子どもがジュニアリーダーに入ってくる、そのような方がすごく多いです。そして、一旦地域外に出ても、また地元に戻ってくるということは、あの地域がいい地域だからだと思っています。そういうことから人材は宝で、いい子がいる、いい先輩がいる、そういう土地にしたいなと思っています。実際、区立学校の校長先生が退職され教育委員会に入られても、その後も変わらずいろんな子どもに関してお世話してくださっています。それから、中原委員にも何かいろんな面で老人や新たなことでもお世話になっています。そういう方が周りにいっぱいいる、うちの地区はそういう人材に恵まれた地区です。</p> <p>私は長らく青少対をやっていて、なおかつ警察関係もやらせていただいていますから、人のつながりの中で自分自身を大事にし、周りを大事にし、そうすると困っていることがあれば誰かにお願いと言えるのです。そういうふうに人間関係で全て成り立っていると思います。今の若い子はすごく能力があるのに、自己の肯定感がないです。だから、それをいかにして伸ばしてあげることが私の課題としています。</p>
<p>中澤委員</p>	<p>私も、よく分からないことばかりで、勉強しながらやってます。</p> <p>提言 1、相談対応ということで、区役所が窓口となっている、対応しているなど、しっかり役所発信で出していけばよいのではないかと思います。</p> <p>提言 2 の部分は、どのように書いたらよいか分からなかったの、空白にしました。</p> <p>提言 3 と 7 です。当事者がいろいろと地域の催しに参加することがよいことと思います。ただし、そういったものをどのように情報を入れていくか、今はいろんな手段がありますけど、それを考えていかなければいけないと感じています。</p> <p>提言 4 と 9 です。例にあるように、公共の場所を集いの場として利用していくということで、共通の趣味のコミュニティーやイベントなどを催してみてもいいのではないのでしょうか。</p> <p>提言 5 と 6、情報発信や充実です。LINE や Twitter、Facebook などの SNS を使って情報を提供することが現代風でよいと思います。今は情報化社会になって、良い反面、悪い反面、メリット、デメリットが非常に大きく出て、変な影響を与えたり、犯罪に絡むようなこともあります。そこは十分に注意しながらやっていき、活用できるものは大いに活用していくということを書いています。</p> <p>最後、提言 8、学びの機会と内容の充実です。今現在、このコロナ禍の中では、大勢が集まることができづらい状態ではありますが、少人数で数回に分けての集会、リモートもよいかと思います。ただ、リモートをやるにしても、まだまだそういった環境が整ってなかったり、人それぞれだと思います。</p> <p>今まででしたら、大勢集まるのが十分できたと思いますけど、現状このような状況になってしまっています。これは新しい生活様式じゃありませんが、コロナに感染しないように注意しながらとか、人への気遣いとかが求められています。そのような影響で、仕事の場におきましても、人とのコミュニケーションが取れないということで、私どもの会社でも、人事異動は非常に慎重になりつつあるというのが、まず現状だと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>私からは、町会・自治会という立場で記入しました。私どもは地域の実戦部隊でございまして、毎日、毎日、行政からのいろいろな依頼事項をこなすだけでいっぱいでございます。ですから、この実戦部隊を率いていくために、提言の 1 にございますように、要するに人材の不足とか、財源が不足しているとか、需要が多様化しているということ</p>

を挙げています。

それで、どういうことを考えるかと言いますと、他の機関の応援が必要でございます。つまり連携・協働の仕組みづくりを実践してほしい。須田委員からご意見がございましたけれども、これが実現しないと、また空回りしているという感じがいたしますので、助けてくださいと、今悲鳴を上げているところです。町会・自治会ですから、地域住民のためにどうあるべきかということを念頭に置きまして、皆さんのお力添えというものを、今、非常に期待しているところです。

何分にも高齢化していることから、デジタルに弱い、弱いから非常にものが進まない、スピーディーじゃないということが現状です。提言の5にございますように、情報発信・マッチングの機能の充実ということが、大きな課題だと思っています。

私は、六郷に在住していますが、六郷の連合会でも、ようやくSNSを起用いたしまして、会長だけでもやろうって、できない人は今みんな勉強してます。これは緊急時に備えるということだけでいいからということで、あれこれ考えないでそれだけでやりましょうというふうに、発信したところでございます。そういうふうにネットワークと連携づくりという、そういうものを充実させないと、町会・自治会は疲弊する一方で、そういう連携という仕組みをうまくつくっていただいて、ご支援をいただければ、一層地域力をつけていけるかと考えております。

全員のお話が終わりましたので、副会長からご意見ををお願いします。

副会長

私は、地域で活動しているというわけではありませんが、皆様からのお話伺っていて、たくさんの示唆をいただきました。

提言は、この間、会長、中原委員との3人で区長に渡し、今後の協働の進め方について、行政側にもお願いをしたところです。

今のお話も踏まえながら、またこの提言の内容を踏まえて、まずは担い手をどうつくっていくのか。その担い手がいろんな組織で集まってきたり、また学んだりしていくことは当然なんですけれども、やっぱり、今、会長も連携・協働とおっしゃいましたが、多様な主体がどうやってネットワークするかということが非常に大きなポイントなのかなとも思いました。

一般に協働とか、新しい公共とか言いますが、やはり大田区らしい連携の在り方というのを模索していく必要があると思います。私は、いつもすばらしいなと思っていますのは、会長をはじめ地域で大変ご尽力されている地縁的な団体の自治会があります。また一方で、各種、石垣さんの青少対なんかもそうですけど、そういう部分で従来から活動してきた方がいらっしゃいます。さらに新しいスタイルのNPOなど市民活動が出てきて、それが非常に活発に動いてらっしゃる。大変ご苦労されているという悲鳴を上げているというお話もありましたけれども、やっぱりそれがうまく連携していく仕組みみたいなものをどうやってつくっていくかだと思っています。この会議ではできていると思いますが、それを定着させていく必要があるのかなと。

それで、中間支援組織ってどうだろうというお話が冒頭にありました。この部分は結構大事なことと思っています。これは、私の率直な感想ですが、東京23区では割と中間支援組織はないです。大きなNPO組織はあって、それが委託みたいな形で各区の仕事をしています。私がかかわっている中野区でも、数年前に行政がやると言われて、そのように行政直営的に支援をするというふうなやり方が結構多いです。まだ余裕があるからできるのだと思うのですが、全国の自治体はそんなことをできないので、すごく親身になってくれるみたいな形でいろんなことをやっているのが、一応中間支援組織みたいな形になってきています。最近の研究だと、イギリスなどでは中間支援と言わないで、社会的基盤組織とか、ベースになる市民の組織みたいなのが生まれてきています。中間支援というと、行政があり市民活動があって、その中間に何かあるというイメージですが、そうではなく市民の活動そのものであり、その部分をどうやってつくっていくのかということのようです。これは決して行政の尽力を軽視するとか、やめろとか、そういうことではなく、そのような部分ができてくると行政のほうももっとやりやすくなっていくのかなと思っています。東京のほうでは本当に余裕があって、埼玉とか、神奈

	<p>川とか、千葉のほうが厳しいんですけど、2050年になってくると、高齢者の75歳以上割合が多分一番ぐらになってきます。そうなるって、かなり厳しくなるので、それに向けて少しずつでも今の皆様の尽力を結集させて、ネットワークをきちんと作りながら中間支援というか、基盤的な市民のネットワークをつくって、そこが担っていけば、行政の力が多少落ちてきても地域を支えられると、すごい先の話ですけどイメージしながら皆様のお話を伺っていました。そういうふうと考えていくと、情報発信の方法とか、先ほどから出ているデジタル化とか、いろんな問題に徐々にでも慣れたり、充実させたりしながらつくっていくとか、学びの部分でも、大変大田区でも頑張られているわけですけども、いろんなほかの自治体の取組なんかも参考にしながら、どういう学びの場を確保していけばいいのかとか、何を学ばばいいのかとか、そんなところが今後、政策的な問題としては出てくるかもしれません。そういった意味で、この大田区らしいいろいろな主体の皆さんが非常にいい感じで連携している部分があると思いますので、その点を生かして、さらにこの政策を進めていただければいいのではないかと感じました。</p>
<p>会長</p>	<p>ほかは、ご意見はございませんか。</p>
<p>志村委員</p>	<p>須田委員から大森西地区の防災の話がありましたが、私は障がいのある人たちの要配慮者の防災のことをずっとやらせていただいています。次にどこに行こうかというときに、やっぱり特別出張所を頼らせていただいていたのではほしいなと思っています。</p> <p>実は中島会長にお願いをして、六郷のほうにチームでお邪魔させていただきました。しかし町会の負担なんかを考えると、私たちが的には、障害福祉のさぼーとびあが事務局となっている自立支援協議会のほうにつながりやすいと思うのですが、また改めて連絡をさせていただこうとも思っています。</p> <p>何かテーマをこちらでも強調してアピールすることをやっていいのかなと、そうすると連携が整いやすくなるのではないかと。本当に町会にはそういったテーマがすごくあると思いますので、この部分に関して力を入れてやっていこうというのをうたって、そこに賛同する団体を押ししていくことがいいと思っています。ただし、全部を一遍にやろうとするとすごく大変なので、一歩ずつ進めながら、だんだんそれを得意なことで分けながら、楽しくやっていけるようなチャンスをつくっていくということを投げながら、つながりながら、エリアでやっていこうとすると団体が評価されることになっていくのかなと、皆様のお話を聞きながら思ったりしました。</p> <p>また、石垣委員のお話にはかなり感動しました。私も自分で活動している大田 TS ネットは、障がいのある人で法律に触れた方を支援しています。小さな規模ですけど、同じようなことをやっていて、私に聞くと障がい者の支援が得意な弁護士につながるみたいなのうわさが流れているようです。そういうことをもっと大きな範囲でずっとやっていっちゃったんだと、すばらしいなと思いました。それが次世代につながっていて、やはりそこをもっと丁寧につなげていけるような取組になるといいなと思いました。</p> <p>あと、中原委員のおっしゃった5人のコーディネーターは、本当は50人ぐらいで出張所と連携してみたいな格好になったらいいのかなと思いました。これからの取組になっていくと思いますが、私たちの団体も社協にはお世話になっていますので、お役に立てることがあればと思ったりもしました。</p>
<p>柳谷委員</p>	<p>石垣委員に教えていただきたいのですが、提言3と提言7のところにある「学校支援地域本部員」、これはスクールサポートという通称になっているものですか。</p>
<p>石垣委員</p>	<p>そうです。</p>
<p>柳谷委員</p>	<p>このコーディネーターについて、分かる範囲でいいのですが、有償なのか、どのように学校が選ぶのかななどを教えていただけますか。</p>

石垣委員	<p>無償です。事業で使われるために10万ぐらいの予算はあるようです。</p> <p>また、支援するほうでは、地元から出ているという方が多いです。そのほかに学校の卒業生、あと青少対の会長、それから地域の会長とか、そういう会長さんたちは、お金は出さなくても支援できるものがたくさんあるのです。例えば、焼き物をやると言えば、地区に農家が多いので、そこから農協につながるなど、そういう支援をしています。さきほども話しましたが校長先生との結びつきとか、何かすごく強いんです。だから、その先生たちが教育委員会に入ってくださいから、またやりやすくなります。やっぱり人材でしょうか、コーディネーターや何かでも、とにかく地元から出た方が多いです。</p>
柳谷委員	<p>そういった方を学校の先生方が選ぶのですか。</p>
石垣委員	<p>そうです。それから希望する方がなるケースもあります。地域で人選するというように。</p>
会長	<p>石垣委員の地域はすばらしい。みんなそれをやってくると、本当にいいのですが、それはもう人材に恵まれていらっしやる。とてもうちのほうはうまくできません。ですから、地域ごとに格差があるというのか、それぞれの中身が違ってきます。</p>
小林委員	<p>大田区の教育委員会が、小学校、中学校全部に学校支援地域本部を設置するというところで、5年ほど前に完了したかと思います。基本的には、副校長が主体となって動いていまして、石垣委員のところのようにうまく回っているところはうまくいっています。</p> <p>私は、今、大森第四中学校のPTA会長をやっている、その前は池上小学校のPTA会長をやっていました。本来はPTAと学校なのですが、PTAはあくまで子どもが学校に通っているときだけのものです。この本部は、地域、PTA、学校と、また別の活動として、卒業した人たちが引き続き学校と関わっていけるような形のポジションで設置されています。しかしながら、実際は結構PTAが自身の活動をしながら、その学校支援地域本部の活動にもという形で入っていきなさいいけない学校というのがほとんどで、なり手の半分ぐらいはPTAであったり、副校長が担っているというのが実態です。全校にあるものの、しっかり回っているところは本当にありがたい組織ですけれども、池上小学校も、一応地域の方がお手伝いしていただき昔遊びをやったりとか、読み聞かせといったところでは関わってくれるのですが、それ以外のところでは人手不足で副校長がコーディネートしているみたいな感じになっています。予算的には、年額10万が出てますが、それをどう使い切るかみたいなところを考えている学校のほうが多かったりして、有効に動くとすごくいい組織だと思うのですが、なかなか難しいというのが実感です。</p>
会長	<p>部長、こんないい話が出ているのに、非常に格差があるということです。ですから、良いところを広めて、皆さんがそれに近づいていけるような方法はありませんか。</p>
部長	<p>貴重なご意見ありがとうございました。</p> <p>一つ一つ、どういう解決策があるかというのは、今すぐにお答えはできないですが、本当にいろいろ受け止めて、改善していきたいと思っております。</p> <p>お話を伺っていて感じたことですが、大田区らしい活動というふうにありましたけれども、本当に今まで培ってきた大田区らしい活動を伸ばして行って、活発にやっていくのがいいのかなと思っています。人口の話も出ましたが、大田区73万8,000人です。ずっと伸びてきて、80万人まで行くような勢いでしたが、ここ数か月、何百人というレベルで減っています。コロナがどのように社会にインパクトを与えるのかというのは、まだ全容が見えてきていないですけども、もしかしたら人口も変わってくる、減少や世代別比率に影響が出るかもしれないということもあります。そうすると、地域の課題というの、ちょっと先だった課題が、少し早まってくるという可能性もあるので、ここは本当に区民活動を支える学びを充実させて、活動もしっかり途絶えさせないよう</p>

会長	<p>にしていくというのが、非常に大切なのかなと感じました。皆さんの意見を受け止めて、何か前進させたらいいかなと思います。</p> <p>ほか、ご意見ございませんか。</p>
小白木 委員	<p>志村委員のレポートで、提言8の下に、「中間支援組織を区民協働団体が担うということではできるのかな・・・との疑問が湧いてきました。官民協働のような形で・・・」という文章があります。これは、私の中のイメージですと、社会福祉協議会になります。志村委員のイメージとしては、区民活動団体の中のあるNPOが担うでもなく、行政が担うでもなく、官民協働の何か委員会組織みたいな、そのようなイメージなんでしょうか。</p>
志村委員	<p>副会長のお話で、都下では結構行政が中間支援をやっていることを知りました。そもそも中間支援組織というのを伺ったのが、この会議の中が初めてで、具体的にそこがどんな動きをしているのか、m i c s おおたところば大森でどのようなコーディネートなどをやっているのかを知らないままに書いているので、？（ハテナ）がいっぱいという感じになってしまいました。</p> <p>それで、さっきお話をしたとおりの特別出張所がそういう力を持てるというか、そこが主導でできるよということがはっきりするのであれば、特にやらなきゃいけないということではなくて、どうすればいいというふうになるのかなというように思いで書かせてもらいました。大田区らしさという言葉がさっき部長のほうからありましたけれども、地域それぞれで特色がある大田区なので、何かテーマを出していくというのが、まずは一つというところかなと感じたりしました。</p>
小白木 委員 志村委員	<p>これからの課題ということでしょうか。</p> <p>エリアによって、動ける団体が違うかと。石垣委員がおっしゃったような力のあるところ、ここはちょっと違うやり方がいいかなとか、それを認めながら、やっぱりできたねという評価をしながら伸びていっているのかなと思ったりしました。</p>
志村委員	<p>それから、オンラインの話です。昨日、うちの団体もZ o o mで小さな会をやってみました。障がいのある方のおうちでも情報の格差というのはあるのですが、昨日の方はチャレンジャーで、全盲の方がZ o o mで参加をされました。もともと音声でパソコンを使われる方なので、口頭で説明をしたらきちっと発言もしていただけて、感動しました。しかしながら、年代とかで全然使えないとか、そういうこともあるので、そこを漏らさないということが大前提だなと思いました。</p> <p>ただ、Z o o mは慣れるとすごく楽です。本当に身近にお話しするのと同じ感覚になってきます。だから、逆にそれで忘れられる人たちが出てこないように気をつけないといけないと思います。</p>
中原委員	<p>中間支援組織ですが、社協も中間支援組織の一つとして役割を担うべきだと考えています。そういう意味でいうと、中間支援組織というのは、ここの団体がそういう団体ですということではなくて、そういう機能であることだという気がしています。区民活動団体の中でも先駆的にやられた方だとか、あるいは一緒になってやっていらっしやる場所がありますが、そこがそういう機能を果たすべきだろうし、先ほど、何か化学変化といいましたけれども、それを起こすような役割といいますか、そういう機能がやっぱり必要ではないのかなと思っています。それは副会長からいろいろ聞きたいと思うのですが、いろいろなところが中間組織、要は団体を支援する組織になっていくのかなと、それを合わせていくと、先ほど会長がおっしゃったように、町会が大変なときに助けてくれて合わせていくという、そういうジョイントみたいな役割をすることで、そのような機能が必要になってくると思いました。</p>

会長	<p>今、コロナで大変ですが、コロナだから何かをやったという特別なことはございますか。普通やらない、日常ではやらないけど、この時期に何かをやったというようなお話がございましたら、お聞かせください。</p>
櫻井委員	<p>参考までに、私の職場の会員さん、企業、中小企業、町工場の方がいらっしゃるのですが、コロナで何千人という社員が在宅になったという企業があり、話を聞きますと、在宅になって初めて日中ずっと家にいると、子どもが帰ってきたときの様子とか、まち中の生活の音とかが聞こえて、こんなにまちはふだん動いているのだと思われたという声をたくさん聞きました。ある意味、地域の活動なんかを若い世代が知るいいきっかけじゃないかなと思うんです。</p> <p>だから、若い世代の方も地域を身近に感じるいい時代かなと思って、こういうことがヒントになればいいと思ってお話ししました。</p>
柳谷委員	<p>私が所属しているガールスカウトの話です。最近、すごく気をつけながらですが、少しずつ集まって集会するということができるようになってきました。一番会えないとき、特に夏休みぐらまでの間、ガールスカウトの本部のほうからコロナ禍での活動についていっぱいヒントが送られてきました。その中でZoomの中でただ話すのだけではなくて、ゲーム感覚でいろいろなツールを考えてくるというチームがありまして、面白かったのが、みんなで自分のお家にあるものでマスの少ないビンゴを作るんです。それを持ってきて、目の前でみんなに見せるというようなことをしながら、それで3個つながったら1番とか、そういうZoomを使ってもただ話をするだけではなくて、動きのある活動の提案があって、私たちがそれをうまく利用するということができたので、新しい発想の転換といいますか、こんなやり方もあるんだなということがありました。</p>
会長	<p>ほかはいかがですか。コロナだから何かをおやりになったという、お聞かせくださいますか。</p>
柳谷委員	<p>ケアマネジャーをしていますと、コロナ禍と言えどもテレワークなんてありません。ただ、デイサービスが何か所か閉鎖するようなことはありました。</p> <p>その中で、デイサービスも1か月休んでしまうと収入が減ってしまいますので、大田区は通所連絡会というのがあって、そこで、おうちでもデイサービスの代わりに運動ができる、レクリエーションができるという本を作りました。今、何種類か発行されています。それが、毎日新聞や読売新聞に取り上げられ、大田区の通所連絡会は、コロナ禍でデイサービスに行けない人たちがおうちで運動機能とか、認知症とか、そういうようなものが悪くならないような、そういうツールが紹介されましたので、ご案内させていただきます。</p>
会長	<p>(チラシを回覧)</p> <p>いつもなら忙しくて出て歩いているのですが、じっと家にいるから何かないかなとやり出すんです。そうしたらいっぱい出てまいりまして、いろいろ取り組みました。高齢者が家から一歩も出ない状態が続きますと、何が起きると思いますか。フレイル、要するに認知症が単純に増えるんじゃないかということ非常に懸念しました。しかも数年前までは高齢者世帯が多かったのに、今はひとり住まいの高齢者が、大田区は4割、うちの町会は6割です。一人でおりますと、誰も話をする人がいないものですから、こういう人たちに対して、町会の福祉部が中心になって安否確認の電話をして、元気ですか、どうですかというようなことを全部やりました。支援してくださいよと登録している会員がおりますので、そう人たちを中心にやりましたら、電話をなかなか切ってくれないので、時間がかかって困ったという話もありました。</p> <p>総会ですが、私の町会は会員数が1,500世帯あるんですが、書面による議決という形を初めてやりました。全世帯に、全部書類を回しまして、その中に一つ、内規を決める</p>

ものがありまして、規約どおりに扱わなくてははいけませんので、書面での決を採り手続きしました。集まって会議をしなくてもできるんだということを、すごく感じました。これは、一つの発見で、人が集まって会議をするのも大事なことです。3回に1回はこういうことでもちゃんとできるんだということを非常に経験しました。これからは合理的に会の運営を図りたいと思っています。

今、回している新型コロナの啓発チラシを作成し全戸配布しました。六郷には二つの地域包括支援センターがあります。その二つの地域包括と連携いたしまして、冷蔵庫に張ってお年寄りがチェックをできるようにということで作ったものです。地域包括で作成していただきましたので非常に助かりました。

前にも申し上げたかもしれませんが、私の町会では、1世帯に対して3,000円のコロナ義援金を支給いたしました。古紙回収で地域が積み立てているお金が5,600万ございましたので、その中から拠出いたしました。皆さんがいろいろ働いた中から出したので、遠慮なくお使いくださいというようなメッセージを添えまして、全部にお配りしまして、非常に喜ばれました。少しばかりのことですけれども、やってよかったなと感じました。

町会には無記名で投書があります。もちろん、人の悪口などの誹謗中傷は絶対に受け付けないんですが、今回の投書は、犬、猫の糞やそういうものの始末について、もう少し考えてほしいという投書でした。衛生的によくはないし、ただ水を流すだけではなく、本当に石けん水などで洗ってという念入りに始末をしてほしいということが書いてありました。町会で啓発していこうということで、これ受け入れて、回覧を作り回しました。

学校防災拠点の訓練を行いました。こんな時期にとあきれられるかもしれませんが、学校防災拠点の訓練は年に1回やるんです。六郷は水防です。土手から水が出たら、平面なものですから、みんなやられるということが分かっておりますので、水害には非常に警戒をしております。その水防を中心に、8月30日の日曜日に、二つの町会が合同で学校に行っていますので、その人たちを15人ずつの2回、30人体制でやりました。間隔を空け、消毒をして、マスク着用で、対策をしてやりました。レポートにまとめまして、今集約をしているところです。まとまりましたら持ってまいりたいと思っております。やればできるということです。コロナだからといって災害がないというわけではないですから、いつも災害のことを考えていなければと思ってやりました。

もう一つ、町内に対するボランティアの募集を独自でやりました。ボランティア活動として、内規に規定したものは有料にしました。1日で1,000円という単価までしっかり規定しまして、それで回覧で希望を聞きました。当然、登録への同意があって、いろいろな仕事の内容を書き何か自分の得意とするものに丸をつけてくださいというふうにしてやっております。まだ、回っている途中で統計は取れておりません。

本当にいろいろとやりまして、ほかに、六郷地区は、高齢者の施策推進プランというものも今度できました。そこに地域カルテという地域のことを六郷は全部載せています。

やるのがたくさんあり、結果はどうなるかは分かりませんが、やれるときにやっておこうと思いました。しかもコロナ禍で動きながらですから、思うようにはできませんけれども、そこから少しずつ種をまいておきますと、やがて芽が出るだろうなんていう期待をしながらやったわけです。

小白木
委員

チラシの作成は地域包括支援センター六郷、西六郷でということでしたが、このフライヤーは、あくまでも六郷の地域包括支援センターが作られたものということですか。

会長

そのとおりです。

小白木
委員

ほかの地域の地域包括支援センターでは、似たようなものはあるのでしょうか。

会長	<p>独自のものですけれども、地域包括支援センターには、ほかで必要ならば加工すれば共有できるのでから他地区へも発信したらどうですかということはお伝えしてあります。どこへ行ったって、必要なこと、やることは同じですから。間に合うようであればお使いいただくようにということもお話ししてございます。いいことは皆でやれたらよいですよ。</p>
小白木 委員	<p>私は、大森東で活動していますが、独居の高齢の方とかが多くいらっしゃいます。私のような者がこういうフライヤーを大森東地区、もっと言えば大田区の全地区で配布するという対応をしたと思った場合は、例えば大森東であれば、大森東管轄の地域包括支援センターのところに相談しに行くというような自主的な関係性の中でやるという感じになるのでしょうか。</p>
会長	<p>六郷ではこれを全戸配布にして、また出張所に置くことにしてあります。出張所にいろいろ引き合いがあったら、どなたにでもあげてくれと、どなたでもお使いいただけるようになっています。</p> <p>地域包括がやっているものですから、費用も全部出していただき、後は出張所に任せて、そこから発信してもらっています。予備は置いていつでもお持ちくださって結構なようにしてあります。</p>
会長	<p>ほかになれば、委員レポートについては終了いたします。</p>
会長	<p>それでは、事務局から、報告などございましたらお願いいたします。</p>
事務局	<p>事務局のほうから2点ほど報告させていただきます。</p> <p>1点目は、冒頭、部長の挨拶のほうで触れさせていただいておりますが、9月10日から開会とされています第3回区議会定例会、こちらのほうに第6次の予算補正を上げています。その中で、地域力応援基金を活用した区民活動団体への支援事業の予算を計上させていただきました。この事業では、コロナ禍の中でも継続して区民生活の向上等に寄与する活動、そういったものを実施する団体に対し緊急的に支援するものです。現在最終の調整を進めていますので、詳細につきましては、予算議決後、改めてご案内させていただきます。</p> <p>本推進会議は、基金を活用した助成事業の審査に関わっていただいているということもございまして、報告させていただくとともに、この事業は、緊急性というところを加味しまして、必要事項を精査し、できるだけ手続きを簡便にさせていただく方向で考えています。そのようなことから事務局のほうで責任を持って事務にあたらせていただくつもりです。</p> <p>こういった事業をやることで、会長からおっしゃっていただいたとおり、コロナ禍の中でどのような活動が行われてきた、または活動に当たっての工夫などが見えてくるのではないかと考えています。またそれらを最終的にはまとめてこの会議をはじめ広く区内のほうに公表する予定です。</p> <p>2点目です。お手元にチラシをお配りさせていただいておりますが、区民協働が担当しております組織の基盤強化につながる講座です。今回、コミュニティマネジメント塾ということで、強くあたたかい組織のつくり方、担い手をどうやって増やしていくかというところを、順を追って考えていただくもので、どうやったら定着して一緒にやっていただけるか、そんなようなことを講座の中で講師から説明していただきます。お近くでご興味のある方がいらっしゃいましたら、9月25日の金曜日が締切ですが、まだ空きがございまして、区民協働をご案内していただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>次回の推進会議の日程について、事務局からお願いします。</p>

会長	<p>《令和2年度 第3は、11月10日（火）開催》</p> <p>会議を終了させていただきます。皆様、本日はありがとうございました。</p> <p>《閉会》</p>
----	---